

2021 屏東大学外国語教育文化シンポジウム

発表要領

主 催：屏東大学英語学科

共 催：屏東大学人文社会学院、応用日本語学科、応用英語学科

場 所：屏東市民生路 4-18 号（国立屏東大学民生キャンパス）

期 日：2021 年 11 月 19 日（金）

発表分野：以下の英語・日本語分野における重要性を有したテーマを募集します。

- (1) 英語教育／日本語教育／教材開発／教授法／マルチメディア教育
- (2) 英語学／日本語学
- (3) 欧米文学／日本文学

原稿送付締切り：2021 年 07 月 10 日（土）

採 択 通 知：2021 年 09 月 06 日（月）

大 会 期 日：2021 年 11 月 19 日（金）

※査読は予稿集の原稿全文を対象とします。英語または日本語の要旨を含む原稿全文を、「応募者情報シート（屏東大学英語学科ホームページ「研討會訊息」からダウンロード可）」とともに、締切日必着で、件名を「2021 屏東大学外語教育与文化研討會論文投稿」として、english@mail.nptu.edu.tw まで電子メールにて送付してください。

発表形態および使用言語

発表形態は、テーマに応じて次のいずれかとなります。

1. 口頭発表（発表：20 分／質疑応答：10 分）
2. ワークショップまたは授業実演（時間：45 分／質疑応答：15 分）

使用言語は、日本語・英語・中国語のいずれかとなります。

投稿原稿の書式

1. 書式

- ・ word で作成し，図表を含め，20 ページ以内に収まるようにしてください。
- ・ 「A4 横書き，40 字×39 行」で作成し，余白は用紙の上下に各 3.17cm，左右に各 2.54cm の余白をとってください。
- ・ 論文タイトルはゴシック 14pt（太字，中央揃え），著者名・役職・所属はゴシック 12pt，（太字，中央揃え），各章の見出しはゴシック 10.5 pt，本文（英数字含む）は MS 明朝，または Jpn Mincho10.5ptとってください。要旨，キーワード，注，図表の文字，参考文献，資料はMS明朝，または Jpn Mincho10ptとってください。
- ・ 句読点は，「，」，「。」で統一してください。
- ・ 外国語が入る場合には，MingLiU（中国語），Times New Roman（英語）を使ってください。
- ・ 中国語の英文表記はウェード式(Wade-Giles)，またはローマ拼音(Hanyu pinyin)方式を使ってください。

2. 要旨

- ・ 要旨とキーワードは，著者名・役職・所属と要旨との間，要旨とキーワードとの間，キーワードと本文との間を，それぞれ 1 行空けてください。
- ・ 論文の最終ページ（参考文献の後）に，論文タイトル・著者名・役職・所属を含め，英語または中国語の要旨を付けてください。
- ・ キーワードは 4～6 語を，次のようにつけてください。例（キーワード：受動文，格助詞...）
- ・ 要旨とキーワードは，使用言語を問わず，合わせて 1 ページを超えないように作成してください。

3. 本文

- ・ 段落は，始めは 1 字空け，両端揃えとし，段落間には空白行を置かないでください。
- ・ 3 行以上の引用は，4 文字分空けて独立段落とってください。また，上下 1 行空けてください。
- ・ 文献，新聞，各種文書，芸術作品（映画，演劇，楽曲，彫刻など）の名称には『 』（二重括弧）を用い，英文の場合はイタリックにしてください。
- ・ 論文，短曲，章名などには，「 」(括弧)を用い，英文の場合には“double quotation marks”を用いてください。
- ・ 括弧が重なった場合には，『「銀河鉄道の夜」とは何か』『与謝野晶子『君死にたまふことなかれ』をめぐって』のように，最も外側の括弧を優先してください。
- ・ 本文に日本語に翻訳した語を使う場合，その語の直後に（ ）で「和訳(原文)」のように，原文を表記してください。
- ・ ページ数は，ページ下中央に記載してください。

4. 各章の見出し

- ・ アラビア数字の 1. 2. 3.....（下位分類は，1.1. 1.2. 1.3. 2.1. 2.2.....）を使ってください。

5. 脚注

- ・ 当該ページの下に，脚注として記入してください。

6. 参考文献・資料

- ・ 本文の最後に，章番号をつけずに参考文献という見出しをつけ，資料を載せる場合は，参考文献の後に，資料という見出しをつけてください。
- ・ 参考文献は，同じ言語ごとにそれぞれまとめて，日本語文献，中国語文献，英語文献の順に記載してください。
- ・ 英語文献は，論文のテーマによって，APA スタイル，LSA スタイルまたは MLA スタイルを用いてください。
- ・ 日本語文献は第一著者の姓の五十音順，中国語文献は第一著者の姓の画数順に配列し，それぞれの記載は，以下の例にしたがってください。

青空文庫<<https://www.aozora.gr.jp/>> (2020 年 11 月 20 日)

佐藤喜代治 (編) (1977) 『国語学研究事典』明治書院

砂川有里子 (1987) 「複合助詞について」『日本語教育』62, pp.42-55.

高橋太郎・金子尚一・金田章宏・齋美智子・鈴木泰・須田淳一・松本泰丈 (2005) 『日本語の文法』ひつじ書房

松見法男 (2002) 「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子 (編) 『日本語教育のための心理学』第 6 章，新曜社，pp.97-110.

王天昌 (1976) 〈音位理論與漢語語音系統之分析〉《東海學報》17：93-107.

洪惟仁 (1994) 〈小川尚義與高本漢漢語語音研究之比較〉《台灣史研究》1-2：26-84.

黃宣範 (1995) 《語言・社會與族群意識》文鶴出版有限公司 台北

主 催 者：項偉恩

大 会 担 当：何淑芬

電 話 番 号：+886-8-766-3800#35401

フ ァ ッ ク ス 番 号：+886-8-721-4289

E - m a i l：english@mail.nptu.edu.tw

学 科 ホ ー ム ペ ー ジ：<https://english.nptu.edu.tw>